

各パートナーの2021年度活動計画と取り組み結果

パートナー（当社が支援する活動地域）

現地の医療課題

ジャパンハート（カンボジア）

ポルポト政権（1970年代）によって、医師や教師など多くの知識層を中心に国民の1/4が虐殺され、政権崩壊後に生き残った医師はわずか数十名でした。その後、政府は国内の医師不足を解消するために、医学生を1年で卒業させ、医療に従事させるという政策を取り、技術も知識も未熟な医師が医療を担うことで医療崩壊を経験しました。現在でも周辺国と比べ、国内の医療水準は低く、設備の整った医療機関も少ない状況であり、医療人材の育成が大きな課題となっています。ジャパンハートが2016年に設立した『ジャパンハートこども医療センター』では、貧困層に対し無償で医療を提供しながら、現地の医療人材の育成も行っています。本医療センターがなければ、この地域の貧困層は、高度医療にアクセスできない状況です。患者数は年々増加し、本医療センターでは必要な医療機器の不足や故障が課題となっています。

2021年度計画

新生児の黄疸早期発見のための検査機器と黄疸の光線治療器等の寄贈

現在、使用中の黄疸診断に必要なビリルビン※5測定器が故障を繰り返しているため、新しい検査機器を寄贈。また、黄疸治療に必要な光線療法機器について、安全性の高い最新機器を寄贈。新生児の体温管理に必要な医療機器を寄贈。

- カンダール州ポンネルー地区の病院で産まれる新生児（年間600人程度）に高ビリルビンのスクリーニング検査を可能にし、早期からの安全性の高い黄疸への対処を可能にします。また、同地区の公立病院で産まれ、生後間もなく呼吸のサポートや体温管理が必要な新生児への治療を可能にします。

KPI 黄疸治療が必要な新生児を早期発見し、安全性の高い光線治療が行えた件数／出生後、体温管理の必要な新生児へ適切な温度下で治療を行った件数

※5 ビリルビン…古くなった赤血球にあるヘモグロビンが壊れてできる黄色い色素のこと

- 生後間もなく呼吸のサポートや体温管理が必要な新生児への治療を現地の医療者だけで実施できるようトレーニングを実施し習得できるようにします。

KPI 新生児に対し、適切な呼吸のサポートや体温管理ができるようになった現地医療者数

2021年度結果

寄贈した検査機器は、分娩後入院した赤ちゃん全員の検査に、光線治療器は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により入院受け入れを中止している期間には、連携している公立病院でビリルビンが気になる赤ちゃんにも使用されました。ジャパンハートからは、「寄贈された測定器を使用し、安全の確認を行う事ができました。測定器での測定値をもとに不要な採血を避ける事ができています。また、光線療法を開始した後の評価もしやすくなりました。ビリルビン上昇を予防する事ができています。これまでに使用していた機器と比べて中央値や履歴などが確認できるようになり使用しやすくなりました。また、入院患者53名に加えて、複数の外来患者さんでも測定することができました。」との報告をいただいています。

新たに寄贈したインファントウォーマー（開放型保育器）は、温まるまでの時間がこれまで使用していたものよりも短く、そして処置する面積が広いので、とても使いやすく処置がしやすくなりました。産婦人科医の滞在時には帝王切開時のベビーキャッチなどでも使用しています。

出生後、体温管理の必要な新生児へ適切な温度下で治療を行った件数：10件（繰り返し使用中）

- 生後間もなく呼吸のサポートや体温管理が必要な新生児への治療を、現地の医療者だけで実施できるようトレーニングを実施しました。現地の医療者3名が、新生児に対し適切な呼吸のサポートや体温管理ができるようになりました。



医療者をを目指す学生教育支援

医学部、看護学部に進学できるほど優秀でも、家庭の経済的理由で就学が難しい学生のために学習支援と卒業後2年間のジャパンハートこども医療センターでの研修期間をサポートしています。2021年度は2018年度から支援しているカンボジア人看護学生に対する支援を継続します。

KPI 看護学生の4年次への進級

2018年度から支援しているカンボジア人看護学生は、2021年11月15日に4年次へ進級しました。現在は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、オンラインでの授業を継続しています。

彼女は成績が優秀だけでなく、授業の無い日には医療活動のボランティアにも積極的に参加しています。今はまだ医療従事者ではないものの、「医療の届かないところに医療を届ける」ため、学生のうちからできる事を探し、とても頼もしい存在に成長しています。



ジャパンハートこども医療センター周辺の環境整備（雨期の衛生環境の改善）

ジャパンハートこども医療センター周辺の庭が整備されておらず、例年、雨期になると水溜まりができます。長期間水が溜まることで、蚊の発生の原因にも繋がります。また、道がぬかるむことで患者さんや付き添い家族の方の足が汚れやすくなり、院内の床も汚れてしまいます。これを解消するために、水が溜まりやすい場所から下水道までの水を引く水路を作るとともに、病院前の砂利道を舗装することで、病院周辺の衛生環境を改善します。

ジャパンハートこども医療センター周辺の環境整備により、車いすの使用時には振動が軽減し利便性が上がりました。これまでは晴れた日には砂埃が舞い上がり院内に入り、雨の時には玄関入口まで泥で汚れておりましたが、舗装されてからは綺麗な状態を保つことができています。雨が降った後でも患者さんやスタッフの足元が汚れにくくなり、院内が清潔に保たれ快適に過ごすことができています。また、水路も確保できるようになってからは、水捌けが改善し、長期間水が溜まる事を防ぐことができています。衛生環境も大幅に改善されました。



パートナー（当社が支援する活動地域）

現地の医療課題

ピープルズ・ホープ・ジャパン（ミャンマー）

ミャンマーの地方農村部では、妊産婦死亡率と新生児死亡率が都市部よりも高いことが課題です。また、基礎的な母子保健サービスの利用においても、都市と地方間の地域間格差が大きく、経済的な要因やアクセス環境が大きな影響を及ぼしています。現状、地方農村部では1年間で約2,400人（2017年）の妊産婦と約22,000人（2018年）の新生児が尊い生命を失っています。主な原因としては認識、アクセス、ケアの3つの遅れであると報告されています。これを防ぐためには、住民の知識の向上と健康行動の改善、そして、保健サービスを提供する側の環境改善やサービスの質の向上、さらには地域の保健システムを管理する保健当局の能力の向上などが必要です。

2021年度計画

助産師及び補助助産師へのスキル・モニタリング（2回目）

2020年度に引き続き、2回目のスキル・モニタリングを実施し、学習した知識やスキルが臨床の現場で生かされているか、その定着度と改善度を測定します。さらに現地のニーズに応じて母子保健推進委員の育成なども予定しています。

KPI アセスメントシートを用いたスキル・モニタリングを実施

助産師の卒後研修及び補助助産師のリフレッシュ研修

2020年度に予定していた研修を、現地の環境が整い次第、実施いたします。

KPI 研修を実施（保健当局との連携による3～5日間の研修プログラム）

* 2021年2月以降のミャンマーの国内情勢の状況や変化に応じて緊急性の高い支援へと変更する場合があります。

2021年度結果

2021年2月以降、ミャンマー国内情勢は厳しい日々が続いており、計画された助産師および補助助産師へのスキル・モニタリングと助産師の卒後研修及び補助助産師のリフレッシュ研修は実施することができず、次年度へ延期することになりました。当初の計画に変わって、地域住民と保健サービスをつなぐ橋渡しをする母子保健推進員（ボランティア）の育成を行いました。

2022年3月、妊婦健診、新生児のケア、妊娠期の危険兆候などに関して、ボランティアに対する研修を2回に分けて実施し、13村60名の母子保健推進員を育成しました。3回目は2022年5月に実施される予定（6村25名）です。なお引き続き、ニーズと安全が確認された村から順次育成していきます。育成された母子保健推進員は、安全を確保しながら保健教育や妊産婦の家庭訪問など、一人ひとりの妊産婦に寄り添った活動を行っています。



母子保健推進員の村での活動の様子
（※画像はイメージです。2019年8月撮影）

パートナー（当社が支援する活動地域）

現地の医療課題

世界の子どもにワクチンを 日本委員会（ブータン）

ブータンはまだ自国で必要なワクチンを全て賄う体力がなく、ワクチンで予防できる感染症で命を落とす子どもたちがいます。また、ワクチンのアクセスに必要な保冷設備も十分ではありません。

2021年度計画	2021年度結果
● DPT（ジフテリア/百日咳/破傷風）ワクチン53,500人分の提供 （2歳児のワクチン接種不足分を100%解消） ● B型肝炎ワクチン9,000人分の提供 （出生24時間以内の乳児のワクチン接種不足分を100%解消） ● TD（破傷風/ジフテリア）ワクチン69,482人分の提供 （妊婦：第1子妊娠中に2回、以降は妊娠ごとに1回と・児童：2回のワクチン接種不足分を56%解消） ● 保冷库5台を提供	● 2歳児の96%がDPTワクチンを接種しました（目標接種率は95%以上）。遊牧民の子どもたちなどへの出張ワクチン接種も計画的に行うことができました。 ● 新生児の96%がB型肝炎ワクチンを接種しました（目標接種率は95%以上）。 ● 児童の96%と妊婦の92.8%がTDワクチンを接種しました（目標接種率は95%以上）。また、学校などでの集団接種も計画的に行うことができました。 ● 当社で支援したワクチン保存用の保冷库は以下の5つの施設に設置されて継続して使用されています。 1. Mongar hospital 2. Lhuentse hospital 3. Paro hospital 4. HongtshoPHC, Thimphu 5. GhummauneyPHC, Samtse

KPI ワクチンと保冷库の供給数

支援したワクチンは全て2021年12月までにブータンに到着しています。まとまった支援により、遠隔地の診療所でも常にワクチンの在庫を確保することができ、高い接種率を維持することができました。



2020年度に支援しておりました、Future Code（支援地域：バングラデシュ）の活動は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、国の規制が厳しく予定より遅延しておりました。新設を予定していた病院が2021年12月にオープンし、当社はその施設へPCR検査機器を寄贈しました。2022年5月10日時点で、新型コロナウイルス感染症を診断するためのPCR検査を合計31件実施しています。そのうち陽性と診断された12名には治療を行い、陽性者における死亡者数は0名でした。PCR検査を実施した患者のうちの61%の貧困層には無償で治療を行っています。

